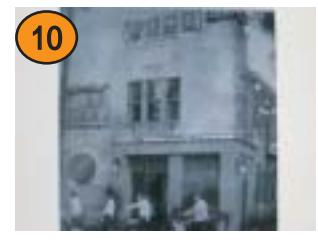


鉄西歴史探索マップ

解説は裏面にあります。



真鍋真次郎氏宅
(北7西5)



竹家食堂
(北9西4)

(株)ムトウ
(北11西4)



有島武郎邸跡
(北12西3)



旧札幌中学校
発祥の地
(北11西3)



至福茶館 吞喰龍
(北8西5)



新撰組隊士
永倉新八来訪の地
(北9西5)



阿部孝太郎氏宅
(北8西6)



岡田硝子工場跡
(北7西4)



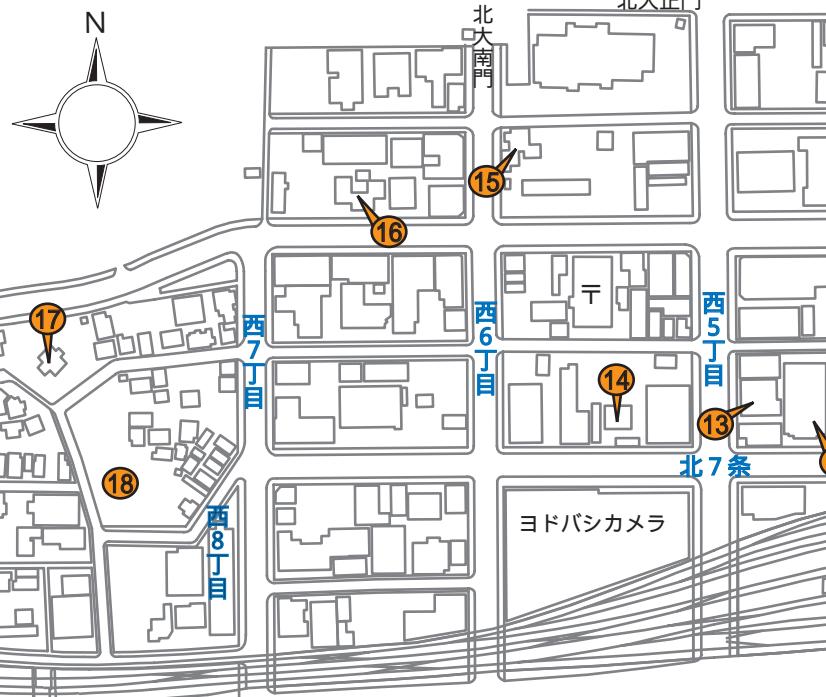
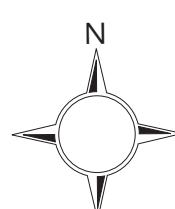
清華亭
(北7西7)



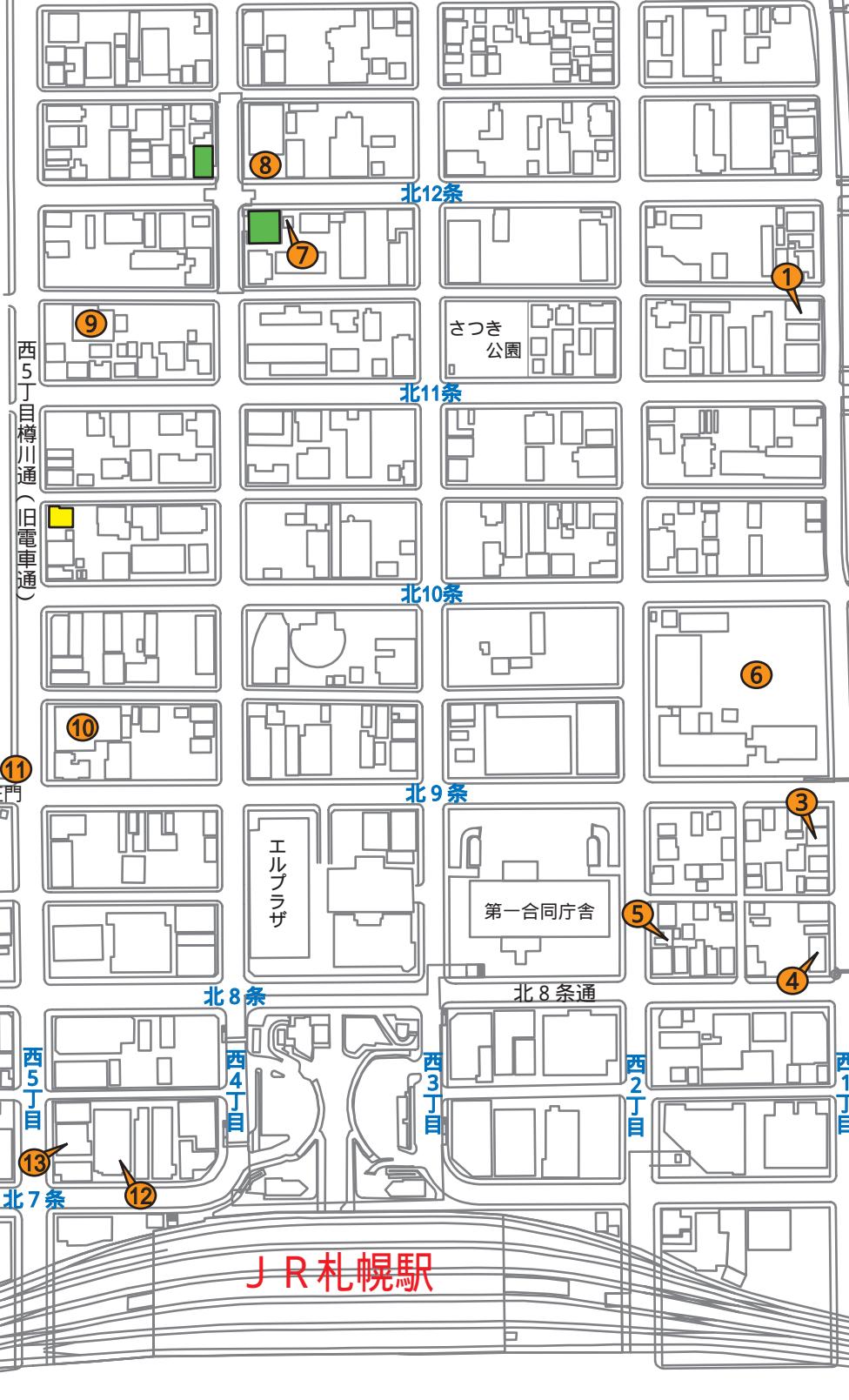
石川啄木下宿跡
(北7西4)



偕樂園緑地
(北6西7)



■ 鉄西まちづくりセンター ■ 地下鉄南北線北12条駅

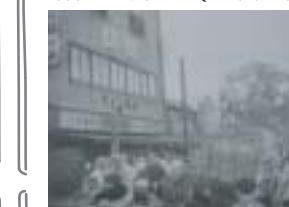


新宿中村屋倉庫
(北11西1)

2 消防第九出張所 (北8西1)

3 三ツ山商店 (北8西1)

昭和20年代頃 (写真左側)



平成18年現在



居酒屋 燐
(北8西1)



石の蔵
ぎやらりい
はやし
(北8西1)



北九条小学校
(北9西1)

写真: 昭和14年頃
西口通用門前

1 新宿中村屋倉庫

札幌軟石で造られた倉庫で、現在はお菓子や肉まん等で有名な、新宿中村屋の商品保管庫となっている。札幌軟石は耐火建材で、蔵や倉庫に用いられることが多く、以前は味噌工場でもあった。

2 消防第九出張所

大正9年、この地に消防第九出張所が設置された。管轄区域は、北は札幌駅北口から現在の篠路、西は創成川から現在の琴似までと、広域であった。

昭和26年に消防第三出張所と統合廃止され、その後建物自体も取り壊された。現在、第九出張所があった場所は、道路に舗装され跡形は残っていない。

3 三ツ山商店

大正9年から続くお米屋で、建物は明治初期にできたといわれ、八条市場に連なる商店のひとつでもあった。現在も、現役で商売を営む唯一のお店。

4 居酒屋 燐

八条市場があった頃から残る建物の1つ。当時は花屋で、2階には貸間もあり、一番南側が大家の部屋だった。平成11年に居酒屋として再利用し、2階は貸間の造りを利用した個室になっている。

5 石の蔵ぎやらりい はやし

石蔵は昭和5年の建築。木造の住宅部分が火災に遭い昭和10年に改築された。その後、昭和14年に金田質店となり、40年間店を構えた。数年間のブランクがあった後は、昭和60年頃に建築設計事務所となり、平成14年に現在の喫茶店併設のギャラリーとなった。

6 北九条小学校

明治34年に開校してから、鉄西地区の変遷を見守り続けてきた歴史ある小学校。戦時には、警防団が防空演習を行っていた。表面の写真は昭和14年頃の警防団。

7 有島武郎邸跡

大正2年、作家有島武郎が札幌永住を決意し、この地に洋風の木造2階建ての家を建てた。妻の病気療養のため、翌年この地を離れた。現在、有島邸は芸術の森に移築・保存されている。北区八十八選に選定。

8 旧札幌中学校発祥の地

明治28年、北海道初の公立中学校にあたる、府立札幌尋常中学校（後の札幌第一中学校）が開校した場所。大正11年に南18西6に移転し、札幌南高等学校の前身となった。北区八十八選に選定。

9 (株)ムトウ

大正7年創業。各種医療用機器などを扱っている。表面の写真は、ムトウ北営業所と呼ばれていた頃で、ビルの前を市電が走っていた。この建物は昭和30年頃まであり、昭和45年に現在のビルになった。

10 竹家食堂

大正11年、この地に中華料理専門店が誕生した。北海道初のラーメンの発祥の地でもある。ラーメン産みの親である王文彩は昭和7年頃に他界。奇しくも市民にラーメンが広がり始めた頃でもあった。現在はエスターNガレリアというビルが建っており、跡形は残っていない。

11 新撰組隊士 永倉新八来訪の地

新撰組きっての剣の使い手で活躍した、二番隊組長の永倉新八。明治2年に杉村義衛と名を改め、晩年、この地にあった道場で東北帝大農科大学（現北大）の学生に剣術指南をしていた。昭和6年に道場は取り壊され、跡形は残っていない。北区八十八選に選定。

12 岡田硝子工場跡

明治23年、札幌初のガラス工場となる河内硝子工場が創業された。明治45年に岡田硝子工場と名称を改め、主な生産品は容器類であった。現在普及している牛乳瓶もここで初めて製作された。表面は当時の写真で、高炉でガラスを溶かし、成型の様子。現在、工場跡地には新日本ビルディングが建っている。

13 石川啄木下宿跡

明治40年、歌人石川啄木が21歳の時に滞在した下宿がこの地にあった。滞在したのは、わずか2週間であった。その後、この下宿地は北7条郵便局になり、現在は札幌クレストビルになった。北区八十八選に選定。

14 真鍋真次郎氏宅

大正4年建築。再開発がすすむ札幌駅周辺で、昔のままの姿を残している。徳島県から移住し、北海道では珍しい、天井の高い造りになっている。

15 至福茶館 吞喰龍

明治35年、札幌農学校（現北大）教授の松村松年が自宅として建てた家。昭和9年に競売にかけられ購入したのは、北大名誉教授の熊沢良雄の父であった。平成5年まで住んでおり、札幌軟石の門柱には熊沢良雄の表札が現在も残っている。平成12年に、アジア系の創作料理店になった。

16 阿部孝太郎氏宅

明治35年建築。今でいう市長にあたる札幌区長を務めた、阿部宇之八の晩年の住居。のちの北海道新聞のルーツともなる北海新聞の創設にも関わった。宇之八の父の滝本五郎は、篠路の地に藍の栽培を始めた。

17 清華亭

札幌最初の公園である偕楽園の中に、貴賓接待所として明治13年に建築された。翌年には明治天皇がご休息された。偕楽園の移設廃止に伴い、明治19年に民間へ払い下げられたが、昭和5年に清華亭保存会が設立し、札幌市の支援もあり、昭和53年に復元工事が完了。清華亭は復活を果たした。昭和36年に札幌市の有形文化財に指定された。北区八十八選に選定。

18 偕楽園緑地

明治4年、開拓使により札幌最初の公園、偕楽園が開園した。広い園内には清華亭のほかに、サケのふ化場、植物を試験栽培する育種場、工業試験場などの施設もたくさんあり、産業の中心地であった。その後、街の発展とともに園内の工業施設は移設され、明治19年の中島公園の完成とともに公園としての機能を失った偕楽園は、民間へ払い下げられた。平成14年に、偕楽園緑地として整備され、サクシユコトニ川の龍神を祀った井頭龍神の石碑がある。北区八十八選に選定。